

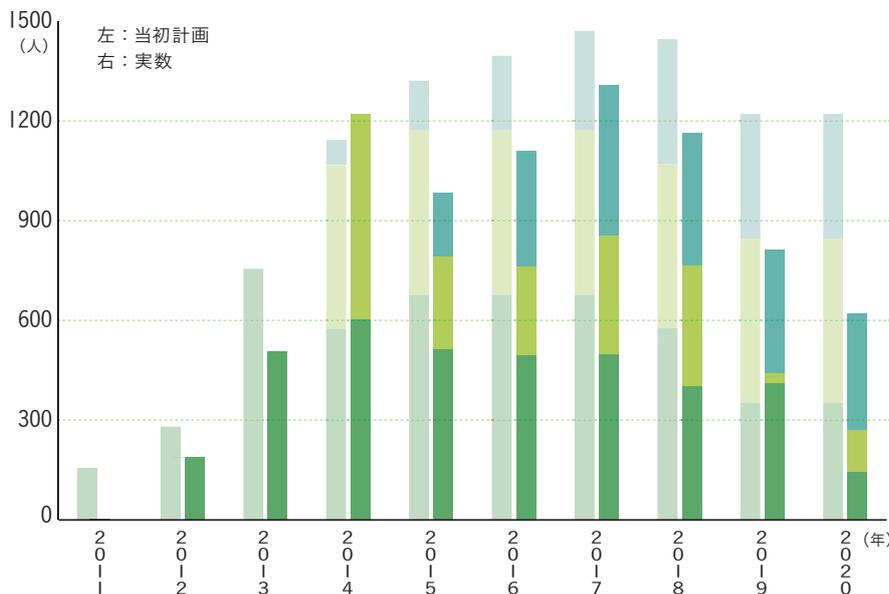


10年間のご支援 ありがとうございました



東日本大震災の長期復興支援活動として取り組んできた「海岸林再生プロジェクト」は、第1次10ヵ年計画を終え、2021年から第2次10ヵ年計画にステージを移しています。全国からいただきましたご支援に感謝の気持ちを込め、10年間の成果を数字で報告します。

現場従事者 **7,916**人



作業別従事者数

〈当初計画〉

■ 育苗 4,064

■ 植栽 2,765

■ 保育 1,500

〈実数〉

■ 育苗 3,756

■ 植栽 2,051

■ 保育 2,109



主に育苗は「名取市海岸林再生の会」、植栽や保育は「宮城中央森林組合」「松島森林総合」が担当し、ボランティアがそれを補完した。ほぼ当初の雇用計画に沿って実行できた。

協定締結面積 **103.05** ha

全長5km×幅約200mの名取市の海岸林全体

植栽面積 **72.46** ha

作業道・防風垣などを除いた植栽実面積

植栽本数 **370,198**本

主にマツクイムシに抵抗性があるクロマツを植栽

活着率 **99.2**%

「名取市海岸林再生の会」と林業事業者の技術力の賜物!

10年間のご支援ありがとうございました

震災10年の節目を過ぎて第2次10ヵ年計画に突入し、103.05haの管理保育を粛々と続けています。皆さまのおかげで思う存分に働く場をいただいていることに、心から感謝しています。

現場は、仙台空港に降りる飛行機の機窓側に見える全長5km。空港から真東に10分歩くとたどり着くのが、その最南端です。徒歩ならば自由にご覧いただけます。クロマツの成長も、ゴミ投棄の現実も。

2012年に種子をまき、14年に植栽木は最大樹高6m以上、胸高直径は10cmに迫り、形状比70未満（樹高÷胸高直径）。災害にも強い森林の「指標」を維持しています。今秋には東北の被災海岸林の先陣を切り、より強靱な防災林に仕立てていくための本数調整伐が始まります。

また、最近では南海トラフ対策など将来に知見を残す「巨大調査地化」しています。海沿いに広葉樹を植えることの非合理性も証明しました。清藤城宏元緑化技術参事を核に、ボランティアが計測し続けた成長モニタリング調査データは、森林総研、東京都立大学をはじめとした専門家にかかれます。8年にわたる林野庁の生物多様性調査で

は、私たちが植えたのはクロマツばかりながら、少なくとも草木360種、昆虫360種、鳥50種などが確認され、宮城の海沿いに生育すべき種が順調に回復中であると評価されました。

海外オイスカには大小さまざま、無数の森林再生の現場があります。海外の現場責任者の多くが、「森林など生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）」研修を名取で重ね、互いを励みにSDGs達成の一端を担うべく奮闘しています。世界の災害は激甚化し、砂漠化に向かう半乾燥地は拡大化しています。日本の伝統的なEco-DRR技術は、世界で活用できます。

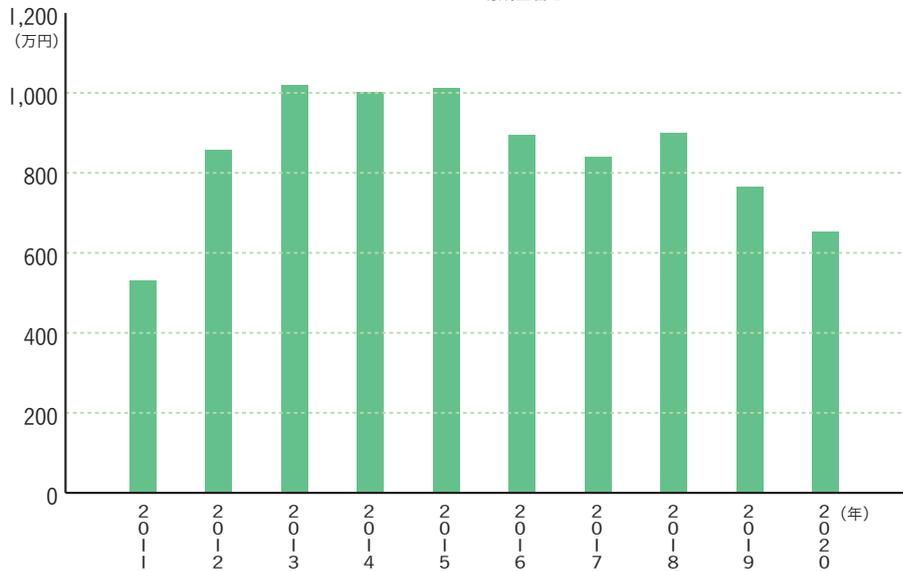
10月6日午後、Eco-DRRを含むオイスカ全体の次期10ヵ年計画を、東京代々木のオリピックセンターの大ホールで発表します。今後も一切の報告を本誌のほか、ホームページ、活動報告会などで継続し、情報公開・報告義務遂行に努めます。

GSM部長 吉田俊通

この4月より「海岸林再生プロジェクト」と兼務し、オイスカ全体の資金獲得と広報を担うGSM (Global Sustainability Mission) という新部署を立ち上げました。オイスカが国際社会にこれまで以上に貢献し、会員・支援者の皆さまにも喜んでいただけるよう頑張っています。

収入総額 8億5,050万円

※助成金含む



寄附者人数 2,202人

※受領証を発行した人数



10億円を目標とした寄附を呼びかけるために配布したチラシは29万枚。最終的に目標金額には届かなかったものの、佐々木廣一名取事務所統括の指導の下、良質苗の生産と確かな技術による植栽が進んだことにより、活着率がよく、補植を必要としなかったことなどによる「低コスト施業」が実現。第2次10ヵ年計画以降に向けた積立金は目標を1億円上回る約3億円となった。

ボランティア人数 11,649人

男女比7:3、宮城県民率3割、リピート率4割

現場視察人数 64カ国 3,681人

海外からはメディア関係者や政府関係者が多数

活動報告会 講演会 248回 39,604人

21都道府県で開催、今後も継続

ブログ更新回数 2,406回

多くの方に投稿への協力もいただいた